

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成24年度 第3回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時		平成24年7月25日(水) 10時00分～12時15分		
開 催 場 所		市庁舎 202会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、末澤委員、岡田委員、田中委員、 廣末委員、米田委員、真鍋委員、岸本委員、佐伯委員 計10名		
	そ の 他			
	事 務 局	泉教育振興部長、船曳総務調整室長、石田学校教育室長、 松田教育支援室長、岡野社会教育室長、岸本中央図書館長 渡瀬中央公民館長、中定生涯学習センター所長、 山元こども家庭室長、井上社会教育室副主幹、 西垣囑託指導主事、鈴木地域コーディネーター、藤巴主事 計 13名		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会総会の報告 (2)兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会の報告 (3)阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会の報告 (4)各協議会の会議報告について (5)その他 4. 議題 (1)平成24年度年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつ なく社会教育のあり方」について (2)その他 5. その他		
会議結果		別紙のとおり		

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>本日は、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>それでは、ただ今から、第3回の社会教育委員の会を開催させていただきます。</p> <p>まずはじめに、本日の委員の出欠であります。全員出席であります。</p> <p>それでは開会にあたりまして、教育委員会事務局並びにこども部からご挨拶をお願いしたいと思います。先ず、教育委員会事務局から、よろしくお願いいたします。</p> <p>教育振興部長からあいさつを兼ねて、いじめの問題などについての発言があった</p>
議長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、こども部からよろしくお願いいたします。</p> <p>こども部こども家庭室長からあいさつを兼ねて、児童虐待の防止についての取り組み状況、「子ども・若者育成支援計画（仮称）」策定のため青少年問題協議会の市民委員の公募等についての説明があった</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議に入りたいと思います。</p> <p>2の「前回会議録の承認」についてであります。お手元に第2回会議録の写しを配付しております。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、5月23日に開催されました平成24年度第2回の会議録についてご説明申し上げます。お手元の会議録の写しをご覧いただきたいと存じます。</p> <p>会議録につきましては、1頁目には会議日程あるいは出席委員等を記載いたしております。また、2頁目からは、会議次第にもとづきご協議いただきました経過等について調製させていただきます。</p> <p>なお、報告事項については、要点のみの記載にいたしておりますので、その点、よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>説明は終わりました。</p> <p>ただ今の説明について、何かご質問等はございませんか。</p> <p>(発言なし)</p>
議長	<p>特に、ご質問もないようでございますので、前回の会議録はご承認いただいたものいたします。</p> <p>次に、3の報告事項に入らせていただきます。</p> <p>(1)から(3)につきまして、事務局から報告いただきまして、その後、会議や研修会に参加された委員の皆さんから、ご意見や感想等をご報告いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>

	<p>事務局から、会議・研修会等について、下記のような報告があった</p> <p>6月18日に宝塚市で開催された阪神北地区社会教育委員協議会総会について、資料1にもとづき次のような報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の年間研究テーマは、「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」ということで決定された。 <p>7月4日に神戸市において開催された兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会について、資料2にもとづき次のような報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生田議長が兵庫県社会教育委員協議会表彰を受賞されたことが報告された。 ・平成24年度の活動目標が、昨年度に引き続き「学校、家庭、地域の連携協力を進め、地域社会の教育力を高める社会教育の推進」ということで決定された。 ・総会終了後、研修会（末元誠神戸大学大学院教授により、「社会教育委員に期待すること～豊かな人間関係を育む地域社会の創造に向けて」と題しての講演会）が行われた。 <p>7月13日に宝塚市で開催された阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会について、資料3にもとづき次のような報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修会について、9月13日に視察研修を行うことが決定された。 ・各市町の情報交換が行われ、研究テーマや諮問事項、あるいは会議開催回数など、各市町での現状等の意見交換が行われた。
<p>議長</p>	<p>事務局の報告のとおり、前回の会議から、県や阪神北などの総会、研修会等がございました。会議にご出席された委員の皆さんから、ご意見や感想等、もし、付け加え等がございましたらお願い出来ますでしょうか。</p> <p>兵庫県社会教育委員協議会の研修会に参加されたC委員、E委員、F委員並びに議長から、研修会に参加してそれぞれの感想等の報告があった</p>
<p>議長</p>	<p>それでは、(1)から(3)までの報告は終わらせていただきます。</p> <p>次に、(4)各協議会の会議報告について、委員さん方に情報提供をしなれないといけないような動きとかいうものがありましたら、共有したいと思しますのでよろしくお願いたします。</p> <p>D委員から、図書館協議会の会議報告があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、以前に実施された図書ボランティアの養成講座を新たに開催されるので、学校支援の方でもたくさんの参加を呼びかけたいと思っている <p>G委員から、7月28日に川西市で「第59回兵庫県人権・同和教育研究大会阪神大会」が開催されることが報告され、参加呼びかけがあった</p> <p>C委員から、7月18日に開催された青少年問題協議会の会議報告があった</p>

<p>議長</p>	<p>・7月29日に保護司会の主催で中央公民館において「転ばぬ先のこそだて」と題して講演会がある旨の報告などがあった</p> <p>E委員から、6月28日に開催された放課後子どもプラン運営委員会の会議報告があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員及び地域で子ども教室を開いていただいている方との交流会を持つことができた ・川西では非常によく頑張って、各地域とも中身を充実させて、参加の子どもたちが増えているという嬉しい発表もあった ・課題の中には、地域と学校との関わりということに関して、学校の協力体制が、地域間で多少差があったように思いますので、全地域がやってよかったなというふうに、ボランティアで講師をされている方が多いですので、そういう地域の人が快く学校へ入って、子どもとの触れ合いが出来るという体制づくりがますます進んだらいいなというふうに思った <p>ありがとうございました。ほか、何かございませんか。</p>
<p>C委員</p>	<p>この会には全然関係ないんですけども、実は、個人的ですが、6月4日から8日まで、10人の仲間とともに宮城県の南三陸町の仮設住宅にそば打ちのボランティアで訪問いたしました。大規模な仮設住宅は割と優遇されているというが、小規模な仮設住宅は、案外、ボランティアも少なくって、そういうのがないということで、行く前から計画して、小規模な仮設住宅ばかり6カ所を訪問いたしました。</p> <p>最初は、何かシラーとしていて、訪問して悪かったかなと思ったりしましたが、しかし、そばを打って、食べていただいて、あと懇談会なんかをすると心が通じて、こんなことまで僕らに聞かせてもらっているのかなというような個人的な悩みを聞かせてもらったりして、いろんな勉強をさせていただいたんです。最終的には、非常に喜んでいただいてよかったなというふうに思います。ただ、残念だったのは、1年3ヵ月もなるのに、何の復興の兆しが見当たらないというのが現状でして、これが非常に残念やなというのが気持ちとして大いにあるところです。会とは関係ない話ですが、ちょっとご報告させていただきます。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>関係ないんじゃないかと、基本的なところで、根幹のところの部分提起していただいたと、委員としていただいたという捉え方で、後からの論議に参考になるんじゃないかなというふうに思いました。</p> <p>それでは、次に、4の議題に移らせていただきます。議題(1)の「平成24年度年間研究テーマ『地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方』について」を議題といたします。</p> <p>前回は、行政の方が今やっつけいらっしゃるところの川西の教育、あるいは社会教育の位置付けやら、いろいろお話をさせていただきましたが、今日は、もう少し具体的に、学校支援地域本部事業が5年目を迎えますが、川西市の現状やら、毎年、報告願っているわけなんですけど、学校支援地域本部事業について、それと社会教育施設であります、図書館事</p>

<p>議長</p>	<p>業や生涯学習センター事業等について、行政サイドの方から、現状や課題、苦慮されているところやら、あるいはPR等々を兼ねてご説明をお願いしたいなということで依頼をしておりました。また、本日は、事務局の職員さんのほかに学校支援地域本部の地域コーディネーターの方にもご出席をいただいております。</p> <p>それでは、学校支援地域本部、中央図書館、生涯学習センターの順で、順次、ご説明をお願いいたします。これら、全ての報告が終わりました後、各委員さんの方から質問というか、お互いにご意見やら交流を深めていくということに、今日はさせていたいただきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。ご説明といいますが、肩の力を抜いて、本当のありのままの部分をお互いに、我々、委員として共有していく立場ですので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>そうしますと、コーディネーターさん、よろしく申し上げます。</p> <p>学校支援地域本部の地域コーディネーターから、5年目を迎えた学校支援地域本部事業について、資料「川西市学校支援地域本部事業3年間のあゆみ」等をもとに次のような説明があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進するために、文部科学省が平成20年度から委託事業として実施。23年度からは補助事業に移行 ・本市では、学校に関わる地域が数多くあることなどから、新たな組織を設けずに、今あるものと人をコーディネーターが繋ぐという形で、学校の応援団として機能させたいと模索してきた ・20年度から22年度の流れについては資料のフローチャートにより説明 ・23年度事業について、委託事業から補助事業に移ったこと、あるいは拠点として「かぼちゃルーム」の開設等やかぼちゃ教室の実施などについての報告があった ・今年度は、さらに、学校の中へ、授業の中へどんなに関わっていけるのかということを考えていきたいと思っています。また、ボランティア側の当事者意識が高まっているという手応えを感じている <p>ありがとうございました。いろいろと質問とかがあろうかと思いますが、一通り終わりましたから、委員の皆様の方から感想やら、あるいはアドバイスやらをお願いしたいと思います。引き続きまして、中央図書館からよろしく申し上げます。</p> <p>中央図書館長から、資料「川西市立中央図書館 施設及び平成23年度事業の概要」や「ほっとHOT」等により次のような説明があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設及び概要、24年度事業、図書館運営全般についての説明があった ・24年度の事業運営については、一般的な図書館サービスの充実と子どもの読書活動推進事業の継続実施を柱として、現行の図書館サービスの継続と維持、発展に努め「あらゆる人に読書の機会を」をテーマとした読書のバリアフリーに向けての活動を進める。また、平成25年3月より図書館システムを更新する ・平成24・25年度の2ヶ年ではなしボランティア（読み聞かせ）養成講座を再び実施する
-----------	--

議長	<p>ありがとうございました。 貴重な情報をいただきまして参考になりました。 最後になりましたが、生涯学習センターの方からよろしくお願いたします。</p> <p>生涯学習センター所長から、資料「平成24年度川西市生涯学習短期大学レフネック」等により次のような説明があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業である生涯学習センターレフネックについての説明が資料の5頁を中心として、入学式・専攻学科・オープン講座・生きがい学習塾・課外講座・学生委員会・学長講話等々についての説明があった ・今年度は、1年生は「建築学科」「水資源・環境学科」合わせて1.6倍の応募があり、2年次の農学科、文化遺産学科もユニークな講座を重ねながら順調に進んでいる。また、オープン講座を3講座設けて実施している。 ・レフネックが力を入れていることの一つに指導者養成があり、リピーターで自分一人だけの知的な資源とするのは勿体ないとの観点から、レフネックの生きがい学習塾などでも活躍されている
議長	<p>ありがとうございました。私自身も初めて聞くようなことも有りますし、ああ、こういう活動をやってらっしゃるんだなという部分等々もございました。委員の皆さん方でご意見やら感想、あるいはご注文も含めまして感じられた部分を発言していただきましたら、有難いなあというように思います。委員というサイドの部分でご意見等を賜りましたら有難いと思います。</p> <p>それでは、I委員さんからお願いできますか。</p>
I委員	<p>たいへん勉強になりました。普段なかなか聞くことのできない話を聞かせていただいて、非常に参考になりました。</p> <p>昔、社会教育というのは時間厳守とネーミングが非常に大切だということ、学生時代か、何かの講義で聞いたような記憶があるんですけども。地域コーディネーターの方のお話の中で、『かぼちゃルーム』というのがありましたね。「川西のボランティアがチャージする」という。抜群のネーミングだなと。そういう工夫も社会教育は大切なんだなということ、勉強させていただきました。我々も見習わなければいけないなあと思います。ネーミングと時間厳守。やはり学校教育が欠けているところでもあると思いますので、見習わせていただきます。ありがとうございました。</p>
議長	<p>意見は往復しても構いませんので、残り少ないんですけど、一言ずつお願いします。</p>
B委員	<p>図書館の件なんですけど、猪名川町の図書館が利用しやすいのは、やはり、駐車場がタダということと広いということ、それが一番なんです。やはり、立地条件かなと思います。なお話を聞かせていただきましたけど。</p>
事務局	<p>一方では、駅に近いということで、一日あたり利用者1800人くらいが、ここ2、3日は来られています。1800人といいますが、ほぼ満席という状態で、床面に座っている方もお</p>

	<p>られるくらいです。キャパからいえば、よくご利用いただいているのかなと思っております。もちろん、おっしゃられているように、これに車で来られたらもっと良いんですけど、そうなりますと、逆に、今の面積では受け入れられないというのが現状かなと思います。</p> <p>ただ、スペースの問題だけではなくて、開館20年も過ぎ、老朽化の問題もあります。当時は最新の機器だったものが、エレベーターにしましても、先程ご説明いたしましたように、停電になった場合に最寄りのフロアでは止まらず、そこで止まってしまう等、施設面も含めて、長期修繕計画が必要になってきています。</p>
C委員	<p>貸出冊数が他市と比べてちょっと低いという問題ですが、これは、蔵書冊数に関係あるんじゃないでしょうか。</p>
事務局	<p>結局、それだناと思っているんですけど。ただし、図書館自体は、最近、1500人~1700人、少ない時で1200~1300人の方が一日来られるんですけど、その内、貸出をされる方は1000人くらいおられます。そして、貸出冊数は一日に約3000冊、そうなりますと一人大体3冊程度の貸出であります。何をいいましても選択肢を多くするというのが大事だと思います。それはキャパの問題もあって、新しい本を入れたいんですけども、なかなか。一方では、皆さんにじっくり座って読んでいただくことも必要じゃないかと、環境面をカバーしていきたいというのが、今の思いなんです。</p>
C委員	<p>先程おっしゃったように、駐車場が無いのがということですけども、考えようによっては非常に交通の便が良い所にあるから、そういう意味では車に乗らずに行こうよというくらいの気持であれば非常に良いんですよ。</p>
議長	<p>川西の公民館は地区公民館も図書室を持っておりまして、地区公民館と連携しての貸出し等を行っていますが、そのデータは入ってないですね。</p>
事務局	<p>総数の中に入っています。</p>
E委員	<p>今、いろいろいじめの関連の問題が世間を賑わしております。非常に心を痛めています。それと関連して、この学校支援地域本部事業というのは、本当に有り難い事業をしていただいているということで、改めて感謝を申し上げます。もう5年目に入ったんやなという感慨があって、コーディネーターをされる時に、教育課程内の支援ってどんながあるやろうということで、いろいろとお世話になってましたので、いろいろ探って悩んでおられたようなことが、つい昨日のように思います。それが、こんなふうにとめられたら、見事に核に据えられた事業で、ボランティア的なものが、本当に核になっているんだと思うんですけど、それから広がって、こんなに羽根を伸ばしてですね、色んな分野で支援をいただいていることに対して本当に広がりと充実に感謝をする次第でございます。ますますの発展を願うんですけども、ただ、最初に部長さんがおっしゃいましたような、今、本当に深刻な問題が起こっております。無茶苦茶、心が痛みます。現場において、最前線でいじめ関係の指導に当たってきました。本当に色んな修羅場を経験してきた思いがあります。そんな思いからすると、いじめというのは、あのようにして大きな問題がポカー</p>

ンと何年かに一回マスコミで集中的に取り上げられますけど、それ以外にもずーっと起こっています。いつでもどこでも起こる。人がいる限りはいじめという現象は起こるんだということとか、今、死のうと思っている子どもたちがいる。その子どもたちの心の叫びをどんなふうに関心かかっていう、そこにやっぱり指導する立場の者が集中してですね、大人としてはどんなことが出来るんかというようなことも含めて教育の場でまたご指導いただけたらというふうに思います。

いじめと簡単に言いますが、これは本当に人権侵害の最たるものの一つでございます。社会では犯罪と呼ばれるものが、学校の中ではないじめと呼ばれて軽く収められることも多々あるというふうに思っていますので、子どもたちをどう導くか。しかし、本当に情報が錯綜しておりまして、何が正しいのか何が正しくないのか、これはもう本当に根が深くてですね、いろんなところで、現象だけ見ていると、マスコミの情報だけ聞いていると誤った方向へ導かれるなど。一例をあげますと、「葬式ごっこ」という言葉、1986年に東京都中野区の中学校で起こったいじめの事件の時に載った言葉ですけど。あの背景は、もっともっと複雑なものがあるんだということが、私は、あちらの現地におった教員と話している中で、報じられていることと、また全然違う側面があるってということもよく知っておりますので、そういう中で行政をされるということはもの凄く難しいことやなっているというふうに思います。だけど、ああしてマスコミに出てしまうと、何か信頼感を損なうようなことに繋がって行って、本当に学校に安心して子どもを預けられるんかという保護者の悲鳴がこう聞こえてきそうな、そんなような状況にされてしまうんですけども。

コツコツとね、すぐに見つけて、そしてすぐに対応して行ってというような、即、短期間で指導を終えて、安心安全の学校作りをするというための指導の手順を是非とも教育行政の現場の中で、これ、経験が無いと、なかなかどんなふうに対処していいかわからないという先生方が多いんです。だから、本当にそういうものに接してきて、場数を踏んで、良かったこと、悪かったこと、全部知っている者が、ぜひ、若い先生方も含めて、ベテランでも知らない人はいっぱいいると思いますけど、指導していただけたらというふうに思っています。

それは学校教育の方に任せますけれども、我々ができるのは、やっぱり教育は人の命が無くなってからどうのこうのというのは、もうそれは殆んど無力ですね。命が無くないような予防に徹底して力を入れるのが教育の力ですので、そのために、いろんな人が子どもたちを見ているよってということ、それから、子どもたちからしたら、いろんなところに安心して話ができる大人がいるなっていう、そういうような関係作りが大事だと思っています。その意味で、学校地域支援本部事業がやって、そしていろんな地域の人が当りに学校に出入りをして、みんなが当りに挨拶をして、ちょっとしたお話の中でも何か子どもたちの雰囲気が違うなあ、子どもからしても、あのおじちゃん、おばちゃんやったら話しても良いかなとか、なかなかそういう大人が周りにいなくて困っている子どもがたくさんいます。そういう意味でたくさんの大人が関わるような、そういう事業をますます発展をさせて、充実をさせて、そして当りに声が掛けられるような人間関係作りが構築できれば、ちょっとは予防になるんじゃないかなと、そんなふうに思っています。

議長

ありがとうございました。D委員さん、お願いいたします。

D委員

昨日、E委員さんとご一緒させていただき、お話をさせていただいたんですが、いじめと

	<p>というのは、ニュースなんかに出ているのは本当に氷山の一角であって、いろんな小さいじめはたくさんあると思うんです。そういうのをやっぱり無くして行くために、ずっと以前からお話させていただいている「聞き方」その、一人一人を受け止めて聞くっていうのが、今、すごく大事なんじゃないかなと思います。表現する場、子どもたちが言いたくても、大人とか周りが受け止める場が無かったら、やはり言いたくても言えなかったりするので、きちっと、相手を良い悪いとか、肯定否定無く、評価無く、その子どもその人の思った、そう思ったんだなあっていうのを一旦受け止めてあげられる場というか、受け止めてあげられる聞き方を、もっともっと広めていきたいなあとあって、今、この「聞き方」が必要とされるのではないかと思いました。</p> <p>昨年に続いて、今年度も教職員研修で8月31日に開いていただくことになり、川西でそういうのをやっているのを尼崎でもお話をさせていただいたら、尼崎の教職員研修も8月13日にさせていただくことになりました。先生方に、子どもたちを受け止める、つい私たち親でも良かれと思って、“それはこうじゃないの、ああじゃないの”とか、“それはアカンよ”とか、評価をして、肯定否定して、受け止める前に先に言うてしまうことが多いんだと思うんですけど、まず、一旦子どもがそう感じたんだ、そう思ったんだということを受け止めてあげられる「聞き方」をどんどん広めていきたいなと思っています。少し宣伝になりますが、聞いていただきたいと思って自主制作でCDを作りました。そのCDの絵は学校支援で応援させていただいている絵本作家の方に描いていただいて、その中で少し音楽も入れたいと思ったので、これも学校支援で「ようこそ先輩」で川西市にも講演に来られたチェンバロ奏者の音楽も入れさせていただいて、「聞き方」というのもっともっと広めたいなあとあって作っています。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。PRも兼ねながら、今日的な問題、子どもの声を聞くという一つのキーワードをお話していただきました。G委員さんよろしく願いたします。</p>
<p>G委員</p>	<p>今、子どもたちのいじめってのが出たんですけども、今、地域の中で活動させていただいて、例えば、高齢者の方が集まっている「長寿会」の中でもいじめがあるんですね。その中でも、ちょっと話が自分たちと合わなかったら、もうその人を村八分じゃないですけど入れてあげない。あるいは幼稚園、小学校、中学校でPTA会長をずっとさせていただいたんですけども、役員の方ですよね、お母さん方同士でもいじめではないんです。でも、自分の子育ては、もう、こうだって思い込んでいるところがあるので、他の方が違うこと言うとそれを受け入れることができない。そこで、自分の考えをお母さんが、強く言える方もいれば、そうでない方もいらっしゃる。そこで、強く言える方は弱くしか言えない方に強く言うてしまうことで、自分の思いを言えない方は、もう申し訳ないですけど、よく「PTAうつ病」とかというんですけども、そういうお母さん方にお会いしたことがあります。まずは、大人の部分のところをもっと考えて、上の世代から伝えて行ってもらえとすごく有り難いなって思うのは思います。</p> <p>学校支援地域本部の、学校に入って来たいっていう先程のお話だったんですけど、それが私の勘違いかどうかアレなんですけど、小学校で会長をさせていただいている時に、学校の図書館は“開かずの間”だったんですね。埃が上にある感じで、掃除のところから入ったんですけども、でもその時に、小学1年生は先生が1人で授業するには、図書室の授業がなかなか成立しない。本の貸出しがバーコードになっているので、先生がバーコードして</p>

	<p>いると、もう子どもたちは本を探すことも出来なかった状態だったので、そこにPTAが入って、“先生、バーコードは私達が見ますよ”と。その代りに、図書の授業は、先生はプロなので成立させて下さい、っていうような形で。この小学校では、今も、多分、継続されてますし、ゆとり教育で委員会活動が減ったんですけども、この春からですか、PTAと先生の方で話し合いをして、図書委員の方は復活して、子どもたちも一緒にという形で入って行って、そこには、ちょっと上手く言えないですけど、保護者が何で入るかという、保護者間のコミュニケーション、たてを取ってもらってという部分が有ったんですね。大人になると、自分の仲の良い人としか話をしないじゃないですか。ではなくって、違う感覚の方の話を聞くことで親も成長して行くっていう部分を、やっぱり大事にしたいと思ったので。でも、親だけ集めようと思ってもなかなか集まって来られませんから、“子どもの授業を見れますよ”っていうところで大人も入ってきて、我が子だけ見るのではなくって、いろんな子どもを見ながら親が成長して行くっていうようなところが、すごく今、子どもたちのことは、現場の先生方が一番頑張ってるって賞わないといけないんですけど、現場の保護者、子育てをしている保護者とその上のおじいちゃん、おばあちゃんと、そこが一番大事なような気がしました。</p>
議長	<p>ありがとうございます。高齢者の部分はよく解りますし、ただ、子どものところの部分は、学校のところの部分は、先ほどコーディネーターの方がお話をされたような形の部分で大きく変わってきつつあるんで。他に、ございませんか。</p>
H委員	<p>普段、どうしても、学校現場は内向きになり易いんですけども、いろんな事業、取組みを聞かせていただいて、やっぱり外向きに考えていくことがすごく大事ななあとということを思います。</p> <p>私の学校では、東日本大震災の後、子どもたちが宮城県名取市の閉上地区の仮設の人と交流を続けています。去年の11月頃から手紙の交換とかしながら交流し、子どもたちの普段の生活を伝えていきます。その普段の手紙だけでもすごく感謝していただいて、そういう心の交流をずっと続けて行くということにより、相手の気持ちを思いやる態度が育って行くのではないかと思います。</p> <p>いじめの問題も非常に難しいところが有りまして、学校の現場では絶えずそういう相談とかあります。必ず全部受け入れるということから始まっていく訳ですし、それから後は、細かい確認作業っていうのが必要になってきます。事実じゃない部分と事実の部分で学校の中で確認しなければいけません。職員が共通理解し、どういうふうに取り組んで行くかってことも共通理解をしていく必要があります。相談があったら、先ず動くということですね。動いて保護者の方にも日々様子を見ていただいて理解が始まると思います。</p> <p>ただ、本当に、現状の事実の認識をしっかりとすることは、非常に難しいとがあります。その辺は根気強い作業です。現実を冷静に理解していただくことも必要だと思えます。でも、学校はいつも悪い事態を考え、周りの人はどう見るだろうかということも考えながら対応する必要があります。でも、いじめは、本当に心が痛む問題なので、そういうものが深く進行しないように、絶えず気を配っていかなくちゃいけないということ、いつも痛切に感じているところです。</p>
議長	<p>ありがとうございます。F委員さん、よろしく申し上げます。</p>

F委員	<p>本当に、他の方々の経験豊かなお話を聞かせていただいて、納得というか、頷くことがすごく多かったです。やはり、すごく難しい問題がたくさんあります。</p> <p>私、保育所にパート勤務しているのですが、うちはね、なんていうか、朝は朝でホットで、帰りは帰りでまたホットでみたいな感じで。というのは、やはり家庭の問題というのがやっぱりそのまま出てくる。朝の状態を見ると、大体、子どもの言っている言動とか、そういうのを見たらすごく感じる事があって。いじめって、ここのところから始まっているんじゃないかなって。家庭で満たされていない部分が、そのまま朝出てきて、そのまま状態が続いて行って、他の子どもたちに対しても。もう、全然、人の心が読めないって、空気読めないし。何を、口から、毒を吐いているのかなと思うようなことを、あんな小さい、2、3才くらいから起こってきます。そういうことを考えている中で、やはり、家庭にもうちょっと私たちが入って行く部分というのはなかなか難しい部分があるんですけども、日々考えている中で、そういうのが、どんどん、どんどん、いじめに結びついているんじゃないかなって。最近、本当に、心が、私自身もすさむようなことがすごく多くて。そんな中でいじめの話とか、先程から聞かせていただいて、やはり考えていかなくちゃいけないことが多いなと思いました。</p>
議長	<p>ありがとうございます。A委員さん、よろしく申し上げます。</p>
A委員	<p>先程から、随分、いじめについてのご意見を聞かせていただいたんですが、私は、いじめってという言葉自身がもう嫌なんです。すごく軽く感じませんか。いじめってというのはもう今回の事件に関してだったら暴行ですよ、世間でいうところの。いじめって、さっきもネーミングとかいう話も出ましたけども、もうちょっと、いじめって言葉じゃないような言葉で事実を表現するようにしないと、何かすごく、いじめだ、いじめだって言っていて見逃されていくようなところもあるんじゃないかなあと一つ感じたんです。</p> <p>もう一つは、私は教師でも何でもないので、保護者の立場からいうと、うちの子どもたちが学校へ行っている時に、いじめはまあ当然あったか、表に出なくてもあったかと思うんですけども、まず、親の立場としたら子どもの命を守るのが一番の責任だと思うんです。先生には先生の職務があり、親には親の責任があって、まず命を守ると。だから私は死んでまで行くような所では学校はないというふうにずっと思っています。だから、親というか、大人は、やはり子どもってというのは学校が殆んど自分の人生の全てみたいなところがあると思うんです。そんなに長い間生きている訳でもない訳ですから。大人が、周りからどういうふうにかこう考えてやるかという、学校じゃない選択肢も色々示してやらないといけないんじゃないかと思うんです。“学校じゃなくても勉強できるよ”とか、“生きていけるよ”とか、“どんどん大きくなって力を付けていけるよ”とか、あんまりこう学校だけに固執してしまうと、しんどくなると思うんですね、子どもはね。何かこう違う道を選択肢を示してやるっていうようなことをしていく方が良いんじゃないかと思うんです。とにかく、死んだら終わりですので、本当に親としたら、死んでまで行く所ではない、行く場所ではないってのを私はずっと思っていました。いじめについてはまあそういうふう考えてるんですけど。</p> <p>今、生涯学習センターとか図書館のことをいろいろお聞きして、少し教えていただきたいことがあります。一つは、生涯学習センターの方で一つあるんですけど、この受講され</p>

	<p>ている方の年齢層というのでしょうか、募集要項を見ましたら何も年齢制限はない、ということ、これは小学生とかでもいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>小学生はないんですけど、高校生はいらっしゃいます。ただ、内容的には高校生がギリギリです。</p>
A委員	<p>ああ、やっぱり専門的な。これをもっと年齢を下げたり何かをしようとか、そういうのはないんですよ。</p>
事務局	<p>学長の方針で年齢制限はありません。ただ、入学案内の内容を吟味していただきますと、大学もしくは大学院レベル、また、学会発表前の論文の解説までも入るなど、非常に難しいんですね。その内容を見ていただいた上で、高校生はいらっしゃいますが、中学生よりも年齢が下の方はご応募ありません。</p>
A委員	<p>実は、私もこの講座受けていたことがあって、ものすごく難しかったです。最後に小論文まで書かされて、大学に行っていた時よりも大変だったなんていう。</p>
事務局	<p>入試もないし、修了試験もない。ただ、出席日数と論文だけはA 4一枚で書いてくださいというのが条件なんです。</p>
A委員	<p>それともう一つなんですけど、いろんな、非常にタイムリーな講座の内容なんかもあると思うんですけど、これはどなたが、運営委員の方々が決められるんですか。今度こういう講座をしようとか。こういう講師の方をとか。</p>
事務局	<p>やはり、開校以来19年を重ねていますので、いろんな大学と人間関係ができて、いろんな情報が入ってきます。そうした講座案を運営委員会の方にご提案させていただいて、その了承を得ております。今、残念ながら関西近辺の大学の先生方が中心なんですけれども、東京の方からの申し出というものも実はございまして、なかなか旅費までは出せず、断念することもございます。</p>
A委員	<p>向こうから申し出があるんですか。</p>
事務局	<p>お名前を出したらびっくりされるような方とか、タレントさんという方もいらっしゃいました。そのへんが生涯学習の難しいところで、いろんな繋がりなので、高尚なお気持ちで演壇に立たれて、無料でされるという著名な方もいらっしゃいますけれども、やはり東京から来ていただいて旅費ということになりますと、もうしんどいです。実をいいますと、レフネックという名前を聞かれ、認知されている方も段々増えて来ておるといのは確かです。</p>
A委員	<p>やはりその19年ですか、20年の実績ですね。</p>
事務局	<p>それと学長の持っておられるネームヴァリューです。大学へ行きましたら、「評判やお噂</p>

<p>A委員</p>	<p>は聞いてますよ」というふうなことで、やはり学長の名前で、私どもの事務局は安心して学校へ行ます。</p> <p>この講座は、走り読みですけども、すごく高度で内容が充実してますよね。だからどういふふうにしてこういう講師の方やら見つけて来られるのかなとちょっと疑問に思いましたのでお尋ね致しました。ありがとうございました。</p>
<p>B委員</p>	<p>一ついいですか。ミュージカルの「川西のきんたろう」なんですけれども、今度、交流という意味で東日本の南三陸町か女川町の方に小学校の体育館を利用させていただいて、向こうで公演をしたいなという計画を、今、立てています。また、教育委員会の皆さんや社会教育委員の皆さんにお世話になると思いますが、よろしくお願いたします。</p>
<p>議長</p>	<p>最後は、私の方から、先程の意見の中で、本質的ないじめとかマスコミ報道を含めてのお話が有りましたように、情報がマスコミを通してしかちょっと分からないという部分と、もう一つはネットのお話を部長がちょっとされてますが、やはりネットの恐さとか、本当に情報に錯乱といいますが、次へ次への問題っていうのが大きく拡大をしているというところがあります。</p> <p>違った角度で、川西のこどもオンブズパーソンの専門委員を9年目に入っております。大体、毎週あるんですけど、マスコミの取材が殺到しているような状態で、その川西のオンブズパーソンは3名いらっしゃるんですけど、位置づけの部分について、我々が住んでいる川西に公的第三者機関があるという中で、やはり子どもの問題、特に虐待の問題、いじめの問題、家庭の問題、育児の問題、学校との問題等々、本当に真剣に考えていらっしゃる相談機関とか、救済機関としてのオンブズパーソンがいらっしゃいますので、川西にはそういう組織もありますので、ちょっと宣伝といいますが、今、注目を浴びているところでございますけど、地道な活動されている組織が市長部局直轄の形の機関としてありますので、ご紹介しときたいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>本日は、大きな問題提起もいただきました。そして、三つの部署からの現状報告もございました。次回にも引き継いだ形の中での会議を充実しながら、我々、意見交換をしながら、市の方に、あるいは市民の方に発信ができたらというように思っております。</p> <p>最後に、事務局の方からお願いたします。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局から、次回の社会教育委員の会の日程等についての説明があった</p> <p>・9月26日の水曜日、午前10時から開催を予定</p> <p>それでは、これをもちまして、平成24年度第3回の社会教育委員の会を終わらせていただきます。委員の皆さん、あるいは市長部局並びに事務局の皆さん、本当にご苦労様でございました。</p>